

<テーマ> 児童のノートをICT機器で映し出し共有することで、友達の考えと自分の考えを比較し自分の考えを広げさせる取組（白石市立白石第一小学校）

1 実施単元

『あまりのあるわり算』（東京書籍 3年上巻P68～78）

2 単元のねらい

わり切れない場合の除法について理解し、除法の意味について理解を深めるとともに、それをを用いることができるようにする。

3 指導改善の手立て

本単元では、ノートを課題解決するための思考の場として使っていく。自力解決で自分の考えをノートに書くことで考えを整理し、思考の跡が残るようにする。また、児童のノートをICT機器で全体に見えるようにし、考えを全体で共有できるようにしたい。「ふかめる」「学び合い」の場面で友達のノートを見て思考をたどったり、自分とは違う考え方に気付いたりすることで、自分の考えを広げていく。

あめが こあります。

1 ふくろに4こずつ入れます。

何ふくろできて、何こ_____

= 2 $12 \div 4 = 3$

= 13 $13 \div 4 = 3$ あまり 1

= 14 $14 \div 4 = 3$ あまり 2

= 15 $15 \div 4 = 3$ あまり 3

= 16 $16 \div 4 = 3$ あまり 4?

4

わり算のあまりの大きさについて考えよう。



= 17 $17 \div 4 = 4$ あまり 1

= 18 $18 \div 4 = 4$ あまり 2

= 19 $19 \div 4 = 4$ あまり 3

= 20 $20 \div 4 = 5$

まとめ

あまりはわる数より小さい。 **わる数** > **あまり**

4 指導の実際



自力解決の前にペアで話し合う時間を取り、見通しをもたせてから、ノートに考えを整理して書かせることができた。また、考えを話し合う場面では数名の児童のノートを電子黒板に映し、比較したり、全体で共有したりすることができた。友達のノートを見ることで、自分と同じ考えや違いに気付き、あまりが4ではいけない理由に気付かせることができた。（左図：電子黒板に映したノートで考えを説明する児童の様子）